

クモヘリカメムシ，イネカメムシ等の発生が多くなっています

斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう！

～斑点米の発生を防ぐためには、乳熟期以降の防除が重要です！～

[現在の発生状況]

- ① 7 月下旬現在，水田における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く，すくい取り虫数は平年より多い(表 1)。病害虫発生予察注意報第 4 号 (7 月 20 日) 発表以降も発生量が多い状況が続いている。
- ② 7 月下旬現在の水田における発生種は，クモヘリカメムシが中心であるが，イネカメムシやアカスジカスミカメの発生量も平年より多い(表 2～表 4)。いずれのカメムシも発生地点率及びすくい取り虫数は，過去 11 年中 1 位である。
- ③ イネへの加害期間が長いイネカメムシは，県南地域を中心に発生しており，一部で多発圃場を確認している(表 3)。また，県央・鹿行地域においても発生を確認している。
- ④ 本年のクモヘリカメムシの産卵時期は，平年より早い。一部の水田畦畔では，すでに老齢幼虫の発生を確認している。



写真 1 イネカメムシ成虫

表 1 水田における斑点米カメムシ類の地域別生息状況(平成 23 年 7 月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	56	20	1	0.4	0.2	2
県央 (15)	27	9	1	0.5	0.1	1
鹿行 (6)	33	15	2-4	5.7	0.3	1
県南 (19)	26	12	2	0.7	0.3	2
県西 (9)	11	8	4	0.1	0.2	7
全県 (58)	29	10	1	1.0	0.2	1

1) 平年:平成13～22年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(2-4は2位から4位まで同じ数値であることを表す)。

表 2 水田におけるクモヘリカメムシの地域別生息状況(平成 23 年 7 月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	22.2	7.3	1-2	0.11	0.22	4-5
県央 (15)	20.0	5.9	1-2	0.17	0.09	4
鹿行 (6)	33.3	5.0	1	3.33	0.08	1
県南 (19)	5.3	3.2	2-3	0.16	0.08	3
県西 (9)	0	1.7	3-11	0	0.08	3-11
全県 (58)	13.8	4.5	1	0.46	0.10	1

1) 平年:平成13～22年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(1-2は1位から2位まで同じ数値であることを表す)。

表3 水田におけるイネカメムシの地域別生息状況(平成23年7月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	0	0	1-11	0	0	1-11
県央 (15)	6.7	0	1	0.03	0	1
鹿行 (6)	16.7	0	1	0.08	0	1
県南 (19)	10.5	0.5	1	0.34	0.01	1
県西 (9)	0	0	1-11	0	0	1-11
全県 (58)	6.9	0.1	1	0.13	0.00	1

1) 平年:平成13~22年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(1-11は1位から11位まで同じ数値であることを表す)。

表4 水田におけるアカスジカスミカメの地域別生息状況(平成23年7月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	11.1	1.0	1	0.06	0.01	2
県央 (15)	6.7	1.0	1	0.23	0.01	1
鹿行 (6)	33.3	6.7	1-2	2.08	0.08	1
県南 (19)	15.8	1.1	1	0.13	0.01	1
県西 (9)	0	4.2	6-11	0	0.10	6-11
全県 (58)	12.1	2.1	1	0.33	0.03	1

1) 平年:平成13~22年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(1-2は1位から2位まで同じ数値であることを表す)。

[防除対策]

- ① 水田に飛来した斑点米カメムシ類成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は、防除を実施する。なお、イネカメムシは夜行性で日中は株元に潜んでいることが多く、発生を見逃しやすいので、株元の生息にも注意する。
- ② 斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除適期は、出穂 10~15 日後頃である。斑点米の発生を防止するためには、特にこの幼虫防除が重要である。
- ③ 収穫の遅い水田では、新成虫の飛来によりカメムシ類の密度が高まることがあるので、発生には十分注意する。
- ④ 防除薬剤は表5を参考にする。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

表5 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成23年8月3日現在)

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数- 剤の使用回数	有効成分- 有効成分の総使用回数
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000	7-3	ジノテフラン-4※
キラップフロアブル	1,000~2,000	14-2	エチプロール-2
MR. ジョーカーEW	2,000	14-2	シラフルオフエン-2

※ 但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内
注1) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意して使用する。

注2) 育苗箱施薬、有人ヘリ防除または無人ヘリ防除を行っている場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。